

七夕飾りで地域復興！！義務教育学校開校元年の夢プロジェクト

高森町立高森東学園義務教育学校 教諭 石井 佑介

キーワード：義務教育学校、異学年合同授業、共同制作、タブレット端末

実践の概要

義務教育学校5・6年図画工作と7～9年美術との異学年合同授業において、七夕飾り制作過程でタブレット端末を活用した配色デザインを行い、異学年グループでの対話的な学びを通してより良いものに仕上げ、互いの夢を共有し、地域住民や観光客に発信した実践である。

1. 目的・目標

1.1 熊本地震と地域イベント

本町では毎年、町内の観光施設である湧水トンネルで七夕祭りが開催され、県内外から多くの観光客が訪れる。その祭りの中でも特に観光客が楽しみにしているのが、地域の学校や企業等が制作する七夕飾りである。制作された七夕飾りは、湧水トンネル内数百メートル区間を美しく彩る。観光客は50作品以上の七夕飾りを鑑賞し、印象に残った作品に票を投じていく。この七夕飾りコンテストにおける投票結果により、その年の優秀作品が決まる。

昨年度は、熊本地震の影響で主要道路が寸断され、その影響で町の観光客は減少し、七夕飾りコンテストも開催されることはなかった。熊本地震から1年が経ち、多くの観光客及び地域住民が、地域復興を願うイベントの1つとして湧水トンネル七夕祭りに期待を寄せていた。

1.2 義務教育学校開校記念と地域復興祈願

そこで本年度、町のイベントに関連付けて、県内初の義務教育学校としてスタートをきった記念すべき年に、全校児童生徒40人で何かを形に残すという、義務教育学校である本校だからこそできる授業実践を行いたいという思いを七夕飾り制作で実現させることにした。テーマは本校の学校教育目標のキーワードである“夢への挑戦”。本校の児童生徒一人一人が、未来に向かって夢を抱

き、その実現に向かって日々元気に頑張っている姿を、町内及び県内外の観光客に伝え、元気な高森をアピールしたいと考え、作品の全体デザインを構想し、制作にとりかかった。

2. 実践内容

本題材のテーマ

「夢への挑戦～プッシュステンド制作～」

2.1 デザイン構想

それぞれの夢を伝え合い、テーマと関連付けて「夢をつかみとる！」ことをイメージして手を描き、背景を自由にデザインさせていった（写真1）。過去にプッシュステンドに取り組んだ経験のある中学生と、初めての経験である小学生とでグループを編制してデザイン構想を見合うことで、自然と学び合いが生まれ、レイアウト構成や背景デザインに変化が生まれていった。

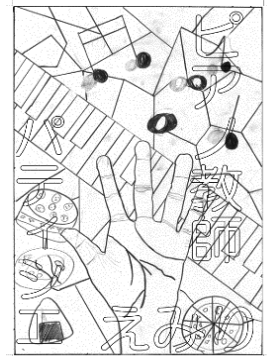


写真1 デザインの構想

2.2 デジタルでの配色デザイン構想

手描きデザインをスキャンしてデジタルへ変換し、図形処理ソフトウェアを使用して配色デザインを構想する学習を行った（次頁写真2）。デジタルで配色を行うことで、短時間で複数のデザインを構成することができ、比較・修正も容易にできる利点がある。また、本校は一人一台のタブレット端末を使用できる環境にあるため、個人のペースで作業を進めることができ、家庭にタブレット端末を持ち帰って続きの作業を行うこともできる。

●単元指導計画（全体時間 11 時間） 児童生徒数 25 名（5～9 年）

時数	学習活動	指導上の留意点	備考（ICT活用）
1	お互いの夢を伝え合う。 手の輪郭線を描く。	・お互いの夢（将来の職業・どんな人になりたいか等）を伝え合う場を設定する。 ・異学年合同の班をつくる。 ・夢をつかみとることをイメージした実物大の手を描かせる。	
1	背景デザイン・レイアウトを考える。	・背景デザイン構成では、5～6年には直線の美しさ、7～8年には曲線の美しさ、9年生には平面構成の美しさ表現することを課題設定し、作品に違いを生み出す。	
2	配色デザインを考える。	・手描きで描いたデザインをスキャンしてデジタルへ変換し、図形処理ソフトウェアを使用して配色デザインを3パターン作成させる。 ・配色デザインを電子黒板で比較提示して、構成の意図や工夫点を説明し、意見交流を行う。 ・デザインの修正及び完成（家庭学習）	スキャナ タブレット端末 電子黒板
1	転写する。	・カーボン紙を使ってプッシュステンドにデザインを転写する。その際、文字の反転に気を付け、紙を裏返して文字をなぞったものを転写させる。 ・線の太さを考えて、マジックでなぞる。その際、異学年合同班で考えを伝え合う場を設定する。	タブレット端末
5	プッシュステンドを制作する。	・カッターでセロハンを貼り付ける部分を上手に切り取るためのコツや、セロハンの上手な貼り方を、班内で経験者に教えさせる。	
1	作品を鑑賞する。	・全員の作品をつなぎ合わせて完成した七夕飾りを鑑賞し、お互いの作品の良さを評価しあう。	

2. 3 対話活動を通じた配色デザインの修正

試行錯誤を繰り返しながら、自分なりに絞り込んだ3パターンの配色デザインを電子黒板で比較提示し、デザイン構成の意図や工夫点を全体で説明し合い、意見を出し合う活動を行った(写真3)。対話的な学びを通して、デザインの統合や色の変更等を繰り返しながら修正・検討を繰り返し、互いのデザインをより良いものに上げていくことができた。

2. 4 プッシュステンド制作と七夕飾りの完成

決定した配色デザインをもとに、プッシュステンドの制作を行った。カッターでうまく切り込みを入れていくためのポイントや、プッシュステンドに貼り付けていくセロハンの上手な貼り方等、プッシュステンド制作の経験がある中学生が、各グループ内で小学生に進んで教える姿が見られた。

一人一人が制作したプッシュステンドをつなぎ合わせた本校の共同制作飾りが湧水トンネルに飾られた(写真4)。上部の球体部分は、1～4年(計15人)が、たくさんの夢をクレヨンや絵の具で和紙に描いたのをつなぎ合わせたもので、下部は5～9年(計25名)が個人制作したプッシュステンドとなっている。照明は、技術の授業で8年生が配線したものを使用した。

3. 成果

児童生徒一人一人の夢が1つの作品に詰まった本校の七夕飾りは、多くの観光客の目に留まったようで、コンテスト投票の結果、最も優れた賞として“特賞”を受賞した。

保護者や地域及び他地域の方々からは「東学園の作品が一番良かったよ。」「とても美しかった。」という感想をいただいた。七夕飾り完成後の9年生の感想には、「全学年で1つの作品制作に向けて取り組んだのは初めてで完成がどうなるか不安もあったけど、自分が他学年に教えたり、逆に他学年から学んだりしながら満足のいく作品に仕上げることができた。お互いに夢の実現に向けてこれからも全校児童生徒で頑張っていきたい。」とあり、夢を共有し、共通題材制作を合同授業で行ったことによって、児童生徒の絆が深まり、地域に夢と元気を与えることができたと感じている。

また、義務教育学校における校種間の枠を越えた合同授業の展開により、学び合いの充実及び作品の質の向上を図ることができた。

4. 今後に向けて

地域に貢献できる児童生徒の育成を図るために、児童生徒一人一人の夢の実現に向けて、義務教育9ヶ年の学びの連続性を意識し、学校総体として取組を継続していきたい。今後は他教科においても異学年との合同授業実践を模索し、義務教育学校の特長を生かした実践を積み重ね、教育の質の維持向上に努めていきたい。



写真2 配色デザインの構想

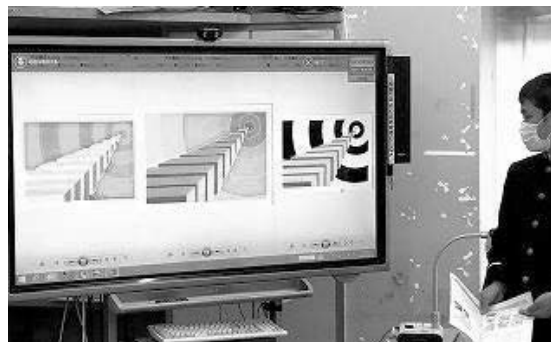


写真3 配色デザインの説明・検討

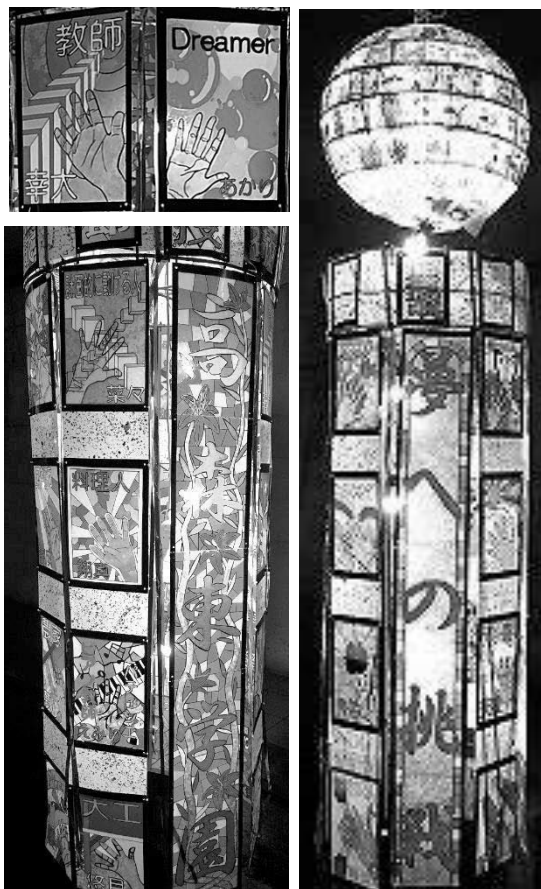


写真4 完成した七夕飾り